

政策番号	25	政策分野	道と緑
------	----	------	-----

基本方針	市民の視点に立った道路、橋りょう、公園等の社会資本の整備及び市民や行政が一体となった維持管理、補修を行うことにより、山紫水明の地の風土や千年の都としての歴史と調和した道と緑を創造する。
------	--

担当局	建設局	共管局	
-----	-----	-----	--

政策に関する主な分野別計画等	今後の道路整備事業の進め方、京都市緑の基本計画、市街地緑化の在り方、京都市橋りょう長寿命化修繕計画、トンネル長寿命化修繕計画、いのちを守る橋りょう健全化プログラム、排水機場長寿命化修繕計画、京都市河川維持保全基本計画、道路付属施設長寿命化修繕計画、道路のり面維持保全計画
----------------	---

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価		23年度 評価値	32年度 目標値	27 年度	28 年度	29年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	第1次緊急輸送路における道路改良延長(km)	1.55	2.6	b	c	0.10	0.08	0.19	42.1%	c
2	緑視率10%以上の箇所数(箇所)	24	37	c	c	26	26	37	70.3%	c
3	道路、橋りょうへのアセットマネジメント導入率(%)	16.0	100.0	b	a	67.8	78.8	6.4ポイント増	171.9%	a
4	土地区画整理事業によるまちなみ整備率(%)	72.0	82.5	c	c	75.1	75.7	1.48ポイント増	40.5%	c
				b	b					b

施策の客観指標評価		評価		
施策番号	施策名	27年度	28年度	29年度
2501	幹線道路ネットワークの充実(2指標)	a	b	b
2502	健やかな生活が実感できる緑化の推進(5指標)	b	a	a
2503	都市活動を支える社会資本の維持管理(2指標)	b	b	b
2504	まちのにぎわいと潤いを創出する市街地環境の整備(3指標)	b	d	e
(4施策平均)		a	b	b

政策の客観指標総合評価 (政策の客観指標評価: 施策の客観指標評価=1:0.5)	27年度	28年度	29年度
	a	b	b

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		27年度	28年度	29年度
1	災害時も安全に移動できる道路網ができています。	c	c	c
2	京都は緑が豊かである。	a	a	a
3	市内の道路や橋が、市民の財産として、よい状態で管理されている。	c	c	c
4	道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。	c	b	b
政策の市民生活実感調査総合評価		b	b	b

2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

27年度		28年度		29年度	
順位	%	順位	%	順位	%
9	85.1%	8	86.4%	10	84.8%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
【客観指標総合評価】 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。		28年度	B
【市民生活実感調査総合評価】 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。		27年度	B
【総括】 ・客観指標は概ね計画どおり進捗するとともに、市民の実感も肯定的に評価されており、総じて取組に見合った実感を得ている。こうしたことを総合的に勘案し、政策の目的は、かなり達成されていると評価する。			

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価＋市民生活実感評価)>

施策番号	施策名	総合評価		
		27	28	29
2501	幹線道路ネットワークの充実	B	B	B
2502	健やかな生活が実感できる緑化の推進	B	A	A
2503	都市活動を支える社会資本の維持管理	B	B	B
2504	まちのにぎわいと潤いを創出する市街地環境の整備	B	C	D

<今後の方向性>

①幹線道路ネットワークの充実

・災害時における避難ルートや道路ネットワークの確保を図るとともに、平常時においても安心・安全な市民生活を守るため、「いのちを守る 橋りょう健全化プログラム(第2期)」に基づき、橋りょうの計画的な耐震補強、老朽化修繕を実施していく。同時に、防災カルテの見直し、道路における落石や斜面崩壊を未然に防止する災害防除対策に取り組む。また、市民の安心・安全の確保や京都のまちの持続的成長のために必要となる道路整備事業を実施するに当たり、平成29年度から平成32年度の4年間で事業を実施する路線や選定に係る考え方等を定めた「今後の道路整備事業の進め方」に基づき、幹線道路ネットワークを充実させる。

②健やかな生活が実感できる緑化の推進

・市街地において、緑の環境をどのように増やし美しく維持していくかを定めた「市街地緑化の在り方」に基づき、「どこを見ても庭園のように設えられている」緑の文化首都・京都を目指していく。

③都市活動を支える社会資本の維持管理

・社会資本を良好に維持するため、各年度の予算の平準化や長寿命化を目指した最適維持管理手法(アセットマネジメント)の導入により、計画的かつ効率的に都市基盤施設を維持補修・更新する。また、市民生活を守るため、関係機関と連携しながら、引き続き、生活道路の安全対策等に取り組む。

④まちのにぎわいと潤いを創出する市街地環境の整備

・魅力ある都市空間の形成に向け、土地区画整理事業などの面的整備手法により、市街地の公共施設と宅地を一体的、総合的に整備する。また、現在施行中の土地区画整理事業の中で、完了まで相当量の事業が残る地区については、早期完了に向けた取組を推進する。

政策名	25	道と緑						
指標名	第1次緊急輸送路における道路改良延長（km）							
担当部室	道路建設部	連絡先	2 2 2－3 5 7 7					
1 指標の説明								
災害などの緊急時に他の府県からの輸送ルートとなる高規格道路、直轄国道等と京都府庁、京都市役所を結ぶ路線（第一次緊急輸送路）における道路改良延長（都市計画道路を除く）								
2 指標の意味		3 算出方法・出典等						
真に必要な緊急輸送路における改良率を示す指標		算出方法：（執行事業費÷総事業費）×計画総延長 出典：事業担当課調べ						
4 数値								
10年後（平成32年度）の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠					
	1.55	2.6	ほぼ完全整備（99.9%）を目指す。					
	前回数値 27年度	最新数値 28年度	推移	単年度目標値		達成度		
数値	0.10	0.08	0.02km減	数値	根拠			
				0.19	緊急輸送路整備目標を達成するために当該年度に達成すべき数値	42.1%		
	全国順位	中長期目標			備考			
	数値	目標年次	達成度	根拠				
数値								
5 評価基準				6 基準説明		7 評価結果		
単年度目標に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上80%未満 c：40%以上60%未満 d：20%以上40%未満 e：20%未満				道路改良延長を進めるにあたって、事業対象地の地権者及び地域住民の合意形成・協力が必要不可欠であることから、当該年度の目標整備延長と比較して達成度が80%以上の場合をa、以下20%刻みで基準を設定した。		27	28	29
						b	c	c

指標名		緑視率10%以上の箇所数(箇所)				
担当部室	みどり政策推進室	連絡先	7 4 1－8 6 0 0			
1 指標の説明						
市街地に設けた計測地点（37箇所）における緑視率（人の目の高さにおける目に見える範囲の緑の割合）が10%以上の箇所数						
2 指標の意味		3 算出方法・出典等				
きめ細かな緑のネットワークの形成をめざして、市民の満足度に寄与する緑の確保状況を示す指標		算出方法：高さ1.5mに据えたカメラを用いて水平に撮影した写真の視野にある緑の割合を計測(単位は%) 出典：事業担当課調べ				
4 数値						
10年後(平成32年度)の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠			
	24	37	沿道緑化の推進により、37箇所で緑視率10%の達成を目指す。			
	前回数値 27年度	最新数値 28年度	推移	単年度目標値		達成度
数値	26	26	増減なし	数値	根拠	
				37	中長期目標と同様	70.3%
	全国順位	中長期目標				備考
	数値	目標年次	達成度	根拠		
数値	37	32年度	70.3%	平成32年度に全ての計測箇所（37箇所）で緑視率10%を確保する。		
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果		
最新数値の中長期目標値に対する達成度が a：100% b：75%以上～100%未満 c：50%以上～ 75%未満 d：25%以上～ 50%未満 e：25%未満		当該指標については、目標とする37箇所全てにおいて緑視率10%以上を達成できた場合を100%とし、以下25%刻みで基準を設定した。		272829 C C C		

政策名	25	道と緑					
指標名	道路、橋りょうへのアセットマネジメント導入率（％）						
担当部室		土木管理部	連絡先	2 2 2－3 5 6 1			
1 指標の説明							
道路（舗装，トンネル，横断歩道橋，カルバート等及び門型標識），橋りょうの計画的，効率的な維持管理に必要となる点検を実施した道路と橋りょうの割合							
2 指標の意味		3 算出方法・出典等					
道路や橋りょうの維持管理にアセットマネジメントを導入し，計画的に修繕を行っていくための指標		算出方法：（（点検済道路延長/幹線道路延長）+（点検済トンネル数/管理トンネル数）+（点検済横断歩道橋数/管理横断歩道橋数）+（点検済カルバート等数/管理カルバート等数）+（点検済門型標識数/管理門型標識数）*1/5）*1/2+（点検済橋りょう数/管理橋りょう数）*1/2 出典：事業担当課調べ					
4 数値							
10年後（平成32年度）の目標値		平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠			
		16	100	完全導入を目指す。			
	前回数値 27年度	最新数値 28年度	推移	単年度目標値 数値 根拠 達成度			
数値	67.8	78.8	11.0ポイント増	6.4ポイント増 計画期間内に完全実施するために必要な単年度の進捗割合 171.9%			
	全国順位	中長期目標			備考		
		数値	目標年次	達成度			
数値				根拠			
5 評価基準					6 基準説明	7 評価結果	
単年度目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満			当該指標については，財政状況の寄与度が比較的高いことから，道路・橋りょうの状況により単年度目標値に対する達成度が，80%以上をa，以下20%刻みで基準を設定した。		27 b	28 a	29 a

指標名	土地区画整理事業によるまちなみ整備率（％）		
担当部室	都市整備部	連絡先	2 1 3－3 5 3 7
1 指標の説明	施行中の土地区画整理事業地区において，事業が進み良好なまちなみが形成された区域の面積を，事業費の執行状況により示したもの		
2 指標の意味	「魅力ある都市空間の形成」に向けた土地区画整理事業の進み具合を示す指標		
3 算出方法・出典等	算出方法：施行中地区で，各年度の事業費執行額を施行済面積に換算して事業当初から積み上げた累計値を全体地区面積で割った率 出典：事業担当課調べ		
4 数値	10年後(平成32年度)の目標値	平成23年度評価値 72.0	平成32年度目標値 82.5 根拠 施行中土地区画整理事業584ha（8地区）のうち，298ha（5地区）の施行完了及び残り3地区について一定の事業進捗を目指す。
	前回数値 27年度 75.1	最新数値 28年度 75.7	推移 0.6ポイント増 単年度目標値 数値 1.48ポイント増 単年度目標値 根拠 $(10\text{年後の目標数値}-\text{前回数値})/\text{前回数値}$ 計測時点での残年数 達成度 40.5%
	全国順位	数値	目標年次 達成度 根拠 備考
5 評価基準	単年度の目標値に対する達成度が， a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満		
6 基準説明	当該指標については，住民との合意形成が前提となることから，これが80%以上となる場合をaとし，以下20%刻みで基準を設定した。 ※達成度＝ $(\text{最新数値}-\text{前回数値})/(\text{目標値}-\text{前回数値})/\text{中長期目標までの残年数} \times 100$		
7 評価結果	27 c	28 c	29 c